

たけとんぼ

戸田市立新曾小学校・戸田市立戸田東小学校・戸田市立美女木小学校 ことばの教室

令和6年7月1日発行

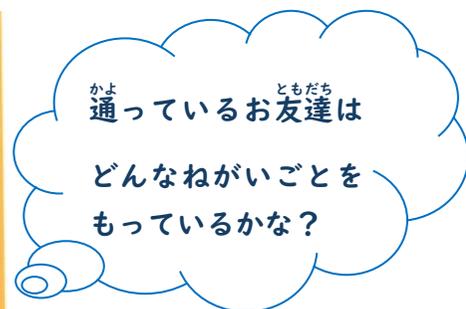


七夕(たなばた)



七夕の日、ひこ星とおり姫が年に一度、天の川を渡って出会うことができるという伝説があります。雨が降ると「天の川を渡れない」とも言われているようですが、今年の七夕のお天気はどうでしょうか。

はた織が上手なおり姫のように、裁縫や手芸が上達することなどを星に願う風習が、今日にもつながっています。みなさんは、どんな願い事を星にかけますか。



音読をする意味ってナニ!?

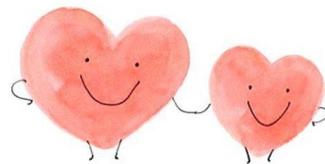
最近、保護者の方から、「早く終わらせてたくて、いい加減に音読している」「そもそも学校で音読の宿題が出なくなった」「教科書を持ち帰らないから音読はしていない」という声を聞くようになりました。音読をするメリットとはどんなことが考えられるのでしょうか。ここで、少し考えてみたいと思います。

声に出して読むことは、聞き取りやすい声の大きさや速さ等、発表や発言をする際の「場」や「聞き手」を意識した練習につながっていきます。また、文の流れや切れ目を意識しながら音読をしていくので、話の展開を想像したり理解したりする力につながり、徐々に黙読する力にもつながっていくでしょう。これは、算数の文章題や資料読解などの他の教科にも役立つはずですよ。



ことばの教室で正しい音を獲得した際には、音読でも正しく使いこなせるように、一音一音、丁寧に声に出していく練習をしていきます。引き続き、御家庭での練習の際には御協力をお願いいたします。

「吃音と生きる」



先日、ことばの教室に通っていた卒業生と話す機会がありました。

保育士として働き始めて2年目となる彼女が、「最近ことばがひどくつまって出てこない。話すのに時間がかかるから子供たちに申し訳ない」と、思い悩んでいる様子だったのです。

ことばの教室に通っていた頃の彼女とは、たくさん遊んだり話したりしました。

『どもりかるた』をやった時には、「読み札を作りたい」と話し、50音全てを書き上げていました。頭の中には言いたいことがたくさん浮かんでいるのに、「いざ声に出そうと思うと出てこないもどかしさ」を彼女なりの言葉で表していたのです。了解を得ているので、当時の読み札(一部)を紹介します。

㊦ なめらかに ^{じぶん}自分の名前が ^て出てこない

㊧ ^{にほんご}日本語が ^{しゃべ}しゃべれないわけでは ^{ない}ないんだよ

㊨ ^ぬ抜かされた ^{よけい}余計な心配ご ^{むよう}無用だ ^{わたし}私も ^{かんが}考え ^ももってるよ

㊩ ^ね寝たくない ^{あした}明日が ^{こわい}こわい ^じ自己 ^{しょうかい}紹介

㊪ ^ののんびり ^{ゆる}ゆったり ^す過ごしていても ^{いつ}いつも ^{どこ}どこかで ^{ふあん}不安なの



彼女は、歌やピアノやダンスが大好きで、「歌う時はどもらない」ことをよく話題にしていました。ダンス発表会の動画を見せてもらった際は、とても生き生きと輝いている姿がそこにはありました。

今でも、歌ったり踊ったりしている姿は、輝いているのでしょう。歌声に合わせて伴奏をする姿も、子供たちの目にはキラキラと映っているのでしょう。そして彼女に憧れを抱く子もいるでしょう。



1週間に1時間でも、自分らしく生き生きとしていられる時間があるならば、ズドーンと落ち込むような時があっても、何とかやっていけるのではないかと思います。落ち込んだ時に、うまく切り替えられるボタンがいくつかあるならば、立ち直る力にもなっていくと思うのです。

吃音の有無にかかわらず、「くしゃん」と心が折れそうになった時の立ち直るための“しなやかさ”は、誰にとっても必要なのかもしれません。

彼女が担任している子供たちは、急かすことなく、話し終わるのをじっと待って聞いてくれているのだそうです。彼女の人柄やその温かさが子供たちにはしっかりと伝わっているのでしょう。

これからも彼女は、悩みながらも周囲には誠意をもって接していくのだと思います。そして、周りの優しさに触れたり包まれたりしながら、いろいろな考えを広げて深めていくことと思います。

“真の優しさ”という大きな財産を築いていけよう彼女をずっと応援していこうと思うのです。